



Vol.7
2023.10

横浜市立大学 地域貢献通信



横浜市立大学は、横浜とともに歩む大学として、研究・教育・医療の力で地域社会に貢献します。この通信では、市大が取り組む様々な地域連携活動をご紹介します。

関東大震災から 100 年

今年は関東大震災から 100 年。震災で大きく被災した横浜で、過去の経験に学び、未来に備える様々な取組を行っています。

ぼうさいこくたい 2023



防災に関する活動を実践する多様な団体・機関が一同に会し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい 2023」。9月17日～18日に横浜国立大学を会場として開催され、横浜市立大学からは2つの研究室が参加しました。

都市防災計画研究室（石川永子研究室）

国際教養学部・石川研究室は、地域防災、災害対策、防災教育、事前復興計画、復興まちづくり、住まいの安全などの研究に取り組む、防災まちづくりの研究室です。

ぼうさいこくたいでは、楽しく防災を学べるボードゲーム「Which? どっち? 防災生活ゲーム」を開発し、ワークショップを開催しました。すろろく形式で、止まったマスごとに被災や災害に備えるためのイベントが起こります。プレイヤーは最初に通貨で家や防災グッズを購入し、選んだ家の種類や備えた防災グッズによって、イベントの結果が変わります。ボード上で被災を疑似体験しながら、時には防災にまつわるクイズが出题されて新たな知識を得るなど、子どもも大人もゲームの中で起こる出来事にドキドキしながら、防災について考えるきっかけとなりました。



横浜市神奈川区×三輪律江研究室

横浜市神奈川区と国際教養学部・三輪研究室は、2019年から保育・教育施設を対象に、近隣コミュニティとの日常的な連携を通して防災・減災対策を行う手法を考える実践的プロジェクトに取り組んできました。その集大成として絵合わせカード「てくてくまっち®」を制作しました。ぼうさいこくたいでは、「てくてくまっち®」を使ったお散歩ワークショップを実施。会場内を散歩し、カードに描かれている消火栓、公衆電話、マンホールなどの防災に関するアイテムを見つけては、インスタントカメラで撮影しました。お散歩から戻って、撮影した写真を見ながら、どんなものをどこで見つけたか等を地図にまとめて発表しました。防火の役目も果たせるいちょうの木を見つけて、そういえば近所のあそこにもあったかも、と改めて気付くなど、日常生活の中で、まちの資源やその活用方法に目を向け、防災・減災の視点を交えて学ぶ体験をしました。



エクステンション講座 関東大震災から100年～横浜の復興の歴史・今・これから～



エクステンション講座では、関東大震災で大きく被災した横浜の被害やその後の暮らし、まちの復興について考える講座をみなとみらいサテライトキャンパスで開催しました。

震災や戦災を乗り越え横浜が復興していった歴史を紐解く講座、都市解析の視点から横浜の地震とその後の火災の被害について振り返り、被災後の市民の暮らしを知る講座、横浜にある谷戸の住宅地で、首都圏直下地震の危険性とまちの復興について考える取組事例など横浜市立大学都市社会文化研究科の教員（鈴木伸治教授、後藤寛准教授、石川永子准教授）による全3回の講座が実施されました。この模様はNHK 首都圏ネットワークや朝日新聞など多くのメディアに取り上げられました。

研究 PICK UP

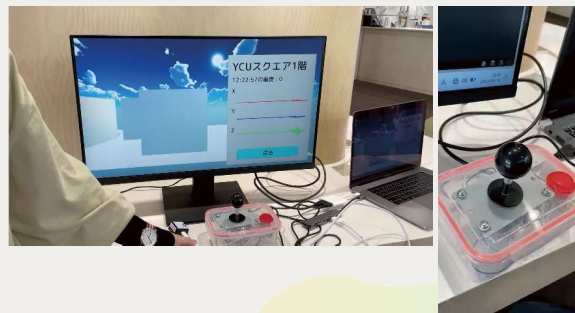
地域実践研究

「IoT 地震動計測センサネットワークの構築—実証実験とデータ利活用に関する研究—」 理学部・金 亜伊

日本は世界有数の地震大国であり、すでに高密度な地震観測網を持っています。しかし、その観測網も個人の家一つ一つ、ビルの各フロアの地震による揺れを計測し、ハザードを予測することは困難です。

理学部・金亜伊准教授の研究では、一般家庭やビルのフロアに小型のIoT地震動計測センサ（IoT センサ）を設置し、センサーネットワークを構築。そのデータをまとめてダウンロードシステムで可視化するシステムの構築を目指しています。例えば建物のフロアや部屋ごとの地震動、災害情報を収集し、街全体のハザードマップを作成するといった活用方法が考えられます。

今年度は八景キャンパス内の数箇所にIoTセンサを設置して、モニター上で誰でも自由に見られるように展示する予定です。そして、大学構内での実証実験を通じて、市民向け地震計ネットワークの社会実装を可能にするノウハウを確立し、有用性や課題、運用方法についても検証していきます。



[詳しい研究内容はこちら](#)

学生の活躍



GLOBAL SUNDAY MARKET × Bo-sai2023

9月2日～3日に山下公園にて一般社団法人横浜青年会議所主催の「GLOBAL SUNDAY MARKET×Bo-sai2023」が開催されました。防災関連のブースや防災派遣キッチンカーなどが出展されるイベントに、市大生によるベンチャー企業「StockBase」が登壇・出展しました。

StockBaseは、企業に余っている備蓄品やノベルティを、必要とする団体に届けるプラットフォームを運営しています。

ブースではアンケートで個人の防災（主に備蓄について）の意識調査を実施し、来場者は備蓄品の大切さを再確認しました。また、メインステージでは、有事の際の自助と共助の大切さについて、トークセッションしました。

